２０２２年4月１７日（日）
宣　教　「うれしいイースター」
聖　書：マルコによる福音書２０章１節～１８節

みなさん、イースターおめでとうございます！

こどもさんびか改訂版 87 番に「くさのめきのめが」という賛美があります。とてもかわいいことばです。歌詞を読んでみます。

１、草のめ木のめが　目をさまし　ぽっかりお顔　出しました
＊うたいましょう　いわいましょう　うれしい　うれしい　イースター
２、たまごの中から　ピヨピヨと　かわいいひよこ　とびだせよ
＊うたいましょう　いわいましょう　うれしい　うれしい　イースター
３、おはかをやぶって　イエスさまが　かがやくすがた　見せた日よ
＊うたいましょう　いわいましょう　うれしい　うれしい　イースター

イエスさまが復活された朝の日の出来事に心の耳を傾けましょう！
◆復活する
1:週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。
ヨハネによる福音書によれば主イエスが甦られた朝、遺体が納められた墓に最初に行ったのは 12 人の弟子たちではなく、マグダラのマリアでした。このマリアは以前、悪質の病をイエスによって癒されたようです。その後、イエスに従い活動を親身になって助けた女性でした。マルコによる福音書によれば、マリアと他の女性たちはイエスの亡骸が墓に納められた時、見ていたのでした。弟子たちはユダヤ当局を恐れて身を潜めていたのだと思われます。墓につくと墓を塞いでいた大きな移動式の石は動かされていたのです。
そこで、マリアは引き返してシモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」と言ったのです。
3:そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。
4:二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。
弟子のヨハネはペトロより若く早く走れたようです。ちなみにこのヨハネによ

る福音書もヨハネの名で記されています。この福音書には時々、ユーモラスな表現があるように思います。それは弟子のヨハネは年長者であり弟子の筆頭格であったペトロに対して謙虚ではありますが、時にペトロ以上に目立っています。

さて、二人は墓につくと、

5:身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は
中には入らなかった。

ヨハネは何を思ったのか、ペトロが到着するまで待ったのです。墓に入るのをためらったのか、ペトロが到着するのを待ったのです。謙虚なヨハネの姿でしょうか。

6:続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いて
あるのを見た。

7:イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、
離れた所に丸めてあった。

こうしてペトロは弟子の中では、一番に墓の中に入ります。それからヨハネが墓の中に入ったのです。

8:それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信
じた。

9:イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書
の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。

「見て、信じた。」ということばが心に残りました。

イエスが以前から語られていた死と復活の預言のことばをこの時まで信じることができなかったということなのでしょうか。ヨハネは墓の中が空っぽだったのでイエスの復活をこの時、信じたということでしょうか。それもペトロよりも先に信じたということでしょうか。

または、この場面でもイエスの復活を信じることはできていなかったということでしょうか。謎が残ります。ミステリーのようです。

ペトロとヨハネは、謎を抱えたまま、悶々とした気持ちで滞在していた家に帰ったのでしょうか。一番古い事の書いてあると言われるマルコによる福音書では、イエスの墓は空っぽであったと記されています。つまり墓の中には、復活されたイエスはすでにおられなかったのです。

ヨハネによる福音書では、甦られたイエスは、最初にマグダラのマリアに現

れました。事の次第が記されて行きます。
11:マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の
中を見ると、
マグダラのマリアはペトロとヨハネの後から、再び墓を訪れていたのです。マリアは墓の外に立って泣いていたのですが、泣きながら身をかがめて墓の中を見ます。マリアはイエスを失いどんなに悲しかったことでしょうか。
墓の中は死の世界、マリアの今の現実も死の暗闇の世界にいるかのようです。しかし、暗闇の中に、マリアは神からの使いである天使の姿を見たのです！
12:イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見え
た。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。
薄暗い中で、マグダラのマリアは確かに天使の声を聞いたのです。

13:天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは
言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているの
か、わたしには分かりません。」
「わたしには分かりません。」イエスの死を受け入れることはできないマリアの切なさを思います。「わたしには分かりません。」と。後に残される者の悲しむ姿がここにあります。マリアの気持ちは誰も分からないのかもしれません。人は本来他者の気持ちを本当には分からないのかもしれません。だから神に執成しを祈るのです。祈るしかないのです。いや祈ることはできるのです。

さて、14:こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見
えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。
「後ろを振り向くと、」墓の中を見ていたマリア、目を墓から後ろに、外に向けるとそこに人が見えたのです。しかし、まだマリアにはそれがイエスだとは分からなかったのです。しかし、確かによみがえられたイエスご自身だったのです。マリアは墓の中を見ている限り、甦られたイエスには気づかなかったのです。
15:イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」
マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」
イエスを引き取りたいマリアです。イエスと共にいたい切なる思いのマリアです。ここでもマリアは、この人がイエスであるとは分からないのです。
16:イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ
語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。

イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、「ラボニ」と言った。ラボニとは、「先生」という意味です。ここにも「振り向いて、」ということばが出て来ています。具体的にどの方向なのかは分かりませんが、マリアはかけられた声に振り向いた時、呼びかけた方がイエスであることを知ったのです。声を聞くということの大きさ、深さを思わされます。墓の中にはイエスはいなかった。イエスの声に振り向いた時、マリアはイエスを確かに知ったのです。イエスの存在を感じたのです。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」と、以前嵐の中で恐れる弟子たちに呼びかけられたイエスの言葉を思い出すのです。

マリアはうれしさのあまり、イエスの身体にしがみついたようです。

17:イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」

18:マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

マリアはよみがえられたイエスから言われたとおり、弟子たちの所に帰り「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えたのです。マリアは、これから先も、イエスを伝えることを通して、慰めと生きる力を与えられ、復活のイエスを神さまの憐みと愛を近くに感じて行けるということです。

イエスの復活はうれしい出来事、喜びの知らせです！天と地をつなぐビッグニュース！なのです。

わたしたちもこうして礼拝を捧げ、聖書のことばを通してイエスさまのことを思い出し、よみがえられた愛なるイエスを近くに感じ、生きる力を与えられるのだと今日イースターの日に思わされました。

わたしたちも主イエスと共にある喜びを伝える群れになって行きたいと願います。

主の平安を祈ります。